

教育上の課題と工夫

小児保健看護演習（3年後期、1単位）は、臨地実習前の1週間に15コマの授業が4クールにわたり展開される。内容は主に看護過程の展開方法と小児看護技術の学習である。COVID-19の流行に伴い、2022年1～2月は実習を含め全ての授業を全面遠隔とする大学の方針のもと本科目も遠隔対応が求められた。学生の学びの保障と学習の促進のために実施した3つの取り組みについて報告する。

1. 双方向性を維持するための工夫：遠隔授業には主にZoomを利用した。2022年1月の演習では、授業中、授業後の質問はZoomのチャット機能やメールを利用するよう学生に呼びかけたが、なかなかリアクションは得られなかった。そこで2月の演習では、授業中は小児保健看護Ⅱで活用しているリアルタイムアンケートシステムを、また授業後はFormsを活用した。いずれも無記名での回答を可能とした。学生の質問は主に課題の進め方についてで、演習後のアンケートや実習後の面談で、「いつでも質問することができるのがよかった」との評価が多数あった。また、演習中のレポート課題は、担当教員の協力を得て、できる限り早くフィードバックした。この点についても、「記録物にコメントをくれてオンライン上でも細かく指導してくれた」「関連図やSOAPを提出後に先生からの返信があり、できている所とできていない所の確認ができた」等、肯定的な評価を得た。

2. 遠隔シミュレーション学習：本科目では学生の能動的学習を促進するために、これまでもシミュレーション学習を取り入れてきた。学習効果や学生の満足度の高い学習方法のため、遠隔でもシミュレーション学習を実施すべく次のように計画した。まず、実際に学生に実施してもらわなければ取り扱うことが難しい内容は除外する等、学習目標を再検討した。実施にあたっては、特にプレブリーフィングに十分な時間をかけ、設定された状況や参加方法を学生がイメージできるよう工夫した。さらに通常はシミュレーションの実施者は学生1名であったが、遠隔での難しさや緊張感を考慮し2名での実施とした。デブリーフィングには1月はオンラインホワイトボードを利用したが、不具合を生じる学生が多かったため2月はPowerPointを利用した。学生からは、「どう動けばいいのか事前に分かって良かった」「1人よりも心強かった」等の肯定的な評価があった。

3. 技術演習について：希望する学生に対して春季休暇中に技術の学習機会を計画し、学生の学習機会を保障するようにした。遠隔授業となった学生の約1/3が参加予定である。

With コロナに向けて

学生・教員間の双方向のやり取りは、学生の学習へのモチベーションに関わることを改めて実感した。授業方法にかかわらず学生とのコミュニケーションを大切に授業展開していきたい。また遠隔シミュレーション学習については、これまで指導者講習会等に継続参加してきたことで、急な変更にも対処できた。教員への継続的な教育方法のFDも重要である。
